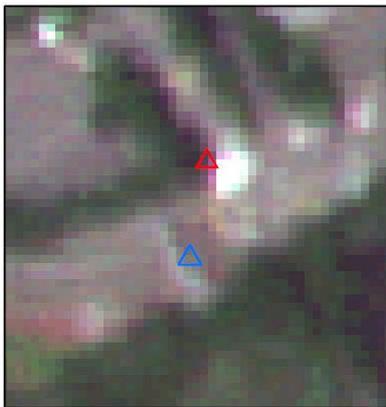


遮熱性舗装(代官町通り : No. 14)



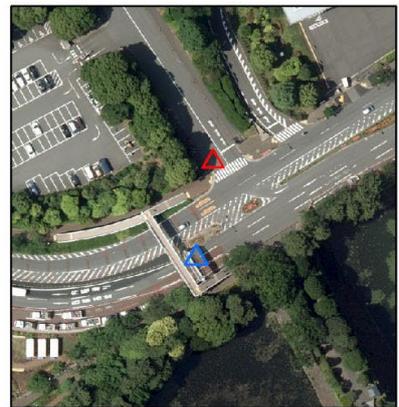
△ : 対策 (遮熱性舗装)
 △ : 未対策 (道路)



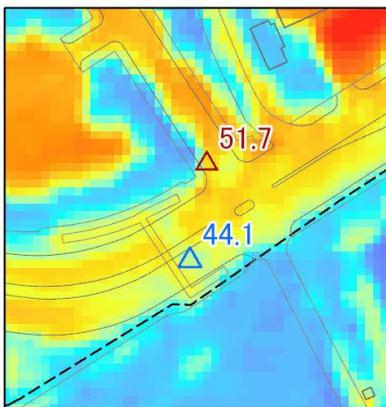
平成15年度



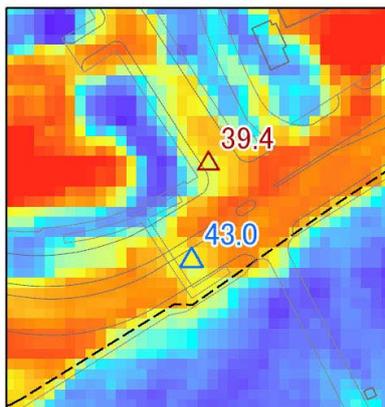
平成22年度



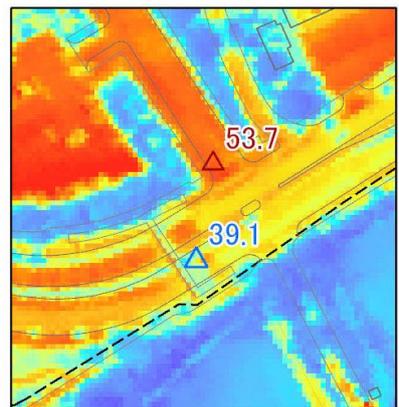
平成30年度(参考)



平成15年度



平成22年度



令和4年度

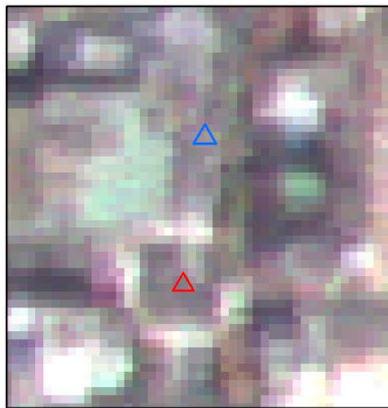
図 6-4(5) 熱分布画像からの地表面温度の変化

北の丸公園前の T 字路で令和 4 年度では歩道橋下から T 字路側に向かって遮熱性舗装になっており、平成 15 年度では 44.1℃だったものが、令和 4 年度には 39.1℃となり、表面温度が低下している。なお、未対策の道路は約 39~44℃だった。

遮熱性舗装(中央通り : No. 15)



△ : 対策 (遮熱性舗装)
 △ : 未対策 (道路)



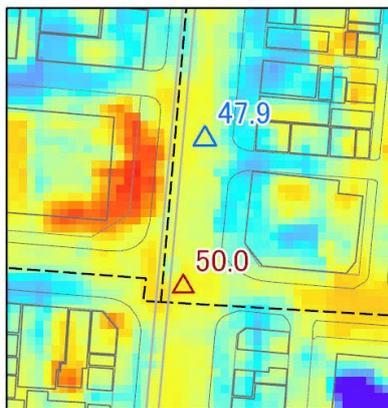
平成15年度



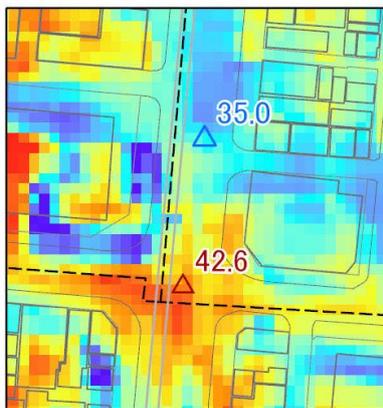
平成22年度



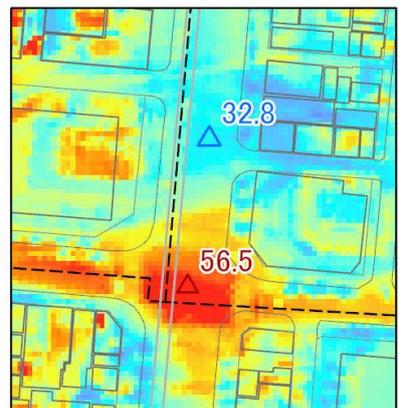
平成30年度(参考)



平成15年度



平成22年度



令和4年度

図 6-4(6) 熱分布画像からの地表面温度の変化

平成 22 年度以降遮熱性舗装となっている道路であり、平成 22 年度、令和 4 年度においても図面下側の十字路のみ遮熱性舗装が施工されていないため、高温であることがわかる。平成 15 年度には 47.9℃であったが、平成 22 年度では 35.0℃、令和 4 年度 32.8℃と約 10℃～15℃表面温度が低下している。なお、未対策の道路は約 43～57℃だった。

(3) 人への影響

1) 調査方法

人への影響の調査は、調査員が実際に決められたルートを踏査し、特に暑さを感じる場所や暑さが和らぐと感じる場所などを、自らの感覚に基づき記録する方法で実施した。

具体的には、ルート上の決められた地点において、3段階の評価及びその時点の気温・暑さ指数(WBGT)を帳票に記録し、そのうち「特に暑さを感じる」、または「暑さが和らぐと感じる」場所については、その原因・状況がわかる写真を撮影することで行った。さらに、決められた地点以外にも、「3：特に暑さを感じる」、「1：暑さが和らぐと感じる」に該当する場所があれば、その位置を記録し、そう感じた原因・状況がわかる写真を撮影した。

表 6-10 暑さの3段階評価

評価スコア	暑さの段階
3	特に暑さを感じる
2	暑い
1	暑さが和らぐと感じる

表 6-11 調査帳票

【帳票】

調査日	調査開始時刻	調査終了時刻	天候	ルート名	調査員名		
				ルート1			
地点番号	写真番号	感じ方 (数字に○をつけてください)			気温	暑さ指数 (WBGT)	備考 (何によってそう感じたか)
		特に暑く感じる	暑さが和らいで感じる				
1-0		3	2	1			
1-1		3	2	1			
1-2		3	2	1			
1-3		3	2	1			
1-4		3	2	1			
1-5		3	2	1			
1-6		3	2	1			
1-7		3	2	1			
1-8		3	2	1			
1-9		3	2	1			
1-10		3	2	1			
1-11		3	2	1			
1-12		3	2	1			
1-13		3	2	1			
1-14		3	2	1			
1-15		3	2	1			

1) 調査地域・地点

① 調査ルート

調査ルートは4ルートとした。(図 6-11 参照)

② 調査日時

調査日時は、以下のとおりである。

表 6-12 調査日時

調査日	時間	ルート	調査員数
令和4年8月3日(水)	9:00~11:00	1	2人
	11:40~13:10	3	2人
	15:40~16:40	2	2人
令和4年8月10日(水)	9:00~10:25	1	8人
	13:00~14:15	3	8人
令和4年8月11日(木)	9:00~9:50	2	8人
	12:50~14:00	4	10人

③ 調査ルート選定理由

人の感じ方調査のルートは、以下の3つの視点から選定した。

(ア) ヒートアイランド対策実施箇所

(イ) 地域を代表するエリア(千代田区都市計画マスタープラン:令和3年5月)

(ウ) 心地よい環境を都心に広げる骨格軸

(千代田区都市計画マスタープラン:令和3年5月)

(ア) ヒートアイランド対策実施箇所(図 6-12 参照)

千代田区では、主なヒートアイランド対策として、遮熱性舗装、保水性舗装、ミストなどによる暑さ対策を実施している。

感じ方調査のルートは、これらの対策の実施箇所を可能な限り経由するように選定した。

(イ) 地域を代表するエリア (図 6-13 参照)

千代田区では、千代田区都市計画マスタープラン (以下「都市計画」とする) において区内を7地域に区分し、それぞれ地域別まちづくりの方針を策定している。

まちづくり方針では、各地域の「まちの概況」に基づき、「まちの将来像」が整理されている。

感じ方調査のルート選定にあたっては、千代田区内の特徴的な、もしくは地域を代表するエリアを可能な限り網羅するため、この「まちの将来像」を踏まえて、各地域を代表するエリアを選定し、そこを経由することとした。

表 6-13 地域別の「まちの将来像」

地域	地域別の「まちの将来像」
麴町・番町地域	落ち着いた住環境と業務空間が共存・調和し、誰もが住み続けられるまち
飯田橋・富士見地域	緑と水辺、学びの場による豊かな環境と商店の活気をつくる、魅力ある生活空間を育むまち
神保町地域	熟成された界隈の文化にひかれた多くの人が創造的活動を広げるまち
神田公園地域	由緒ある下町のDNAから新しい魅力を醸成し、未来に伝えるまち
万世橋地域	界隈の歴史性と先端性、アートが融合し、文化を創造・発信し続けるまち
和泉橋地域	人、生業のつながりを育み、下町の魅力とコミュニティを醸成するまち
大手町・丸の内・有楽町・永田町地域	風格ある環境共生空間で、世界に開かれた都市活動が育まれる強靱なまち

出典：「千代田区 都市計画マスタープラン つながる都心 人・まちが織りなす多彩な都市の価値」
(令和3年5月、千代田区)

(ウ) 心地よい環境を都心に広げる骨格軸 (図 6-14 参照)

千代田区では、地域エネルギーデザインの展開の一環として、ヒートアイランド現象の緩和を視野に入れた都市の構造転換方針を策定している (都市計画マスタープラン(令和3年5月)千代田区: p107)。

ここでは、心地よい環境を都心に広げる骨格軸として、3つの都市骨格軸が提示されている。それぞれの軸は、ヒートアイランド現象の緩和やクールスポットの創出など通じて、心地よい環境を都心に広げることを目的とした地域であることから、人の感じ方調査のルート設定に際し参照した。

表 6-14 心地よい環境を都心に広げる骨格軸

項目	内容
環境創造軸	皇居周辺の大規模緑地、内濠、外濠、神田川、日本橋川と、幹線道路等を軸として、緑や水辺とつながりが強い空地や環境負荷の少ない建築物などが連坦し、心地よい風が通る都心の快適な環境を広げていきます。
都市機能連携軸	内堀通り (環状1号線) から放射状に延び、環境創造軸を通過する都市機能連携軸がヒートアイランド現象を緩和する“風の道”となって、心地よい環境が周辺に広がるよう、沿道の建築・開発などを進めていきます。
エリア回遊軸	潤いを感じる植栽や夏場の木陰・クールスポットなど、まちを快適に歩くために配慮されたオープンスペースがグランドレベルで連続するように、沿道の建物の更新等を進めていきます。

出典:「千代田区 都市計画マスタープラン つながる都心 人・まちが織りなす多彩な都市の価値」(千代田区、令和3年5月)

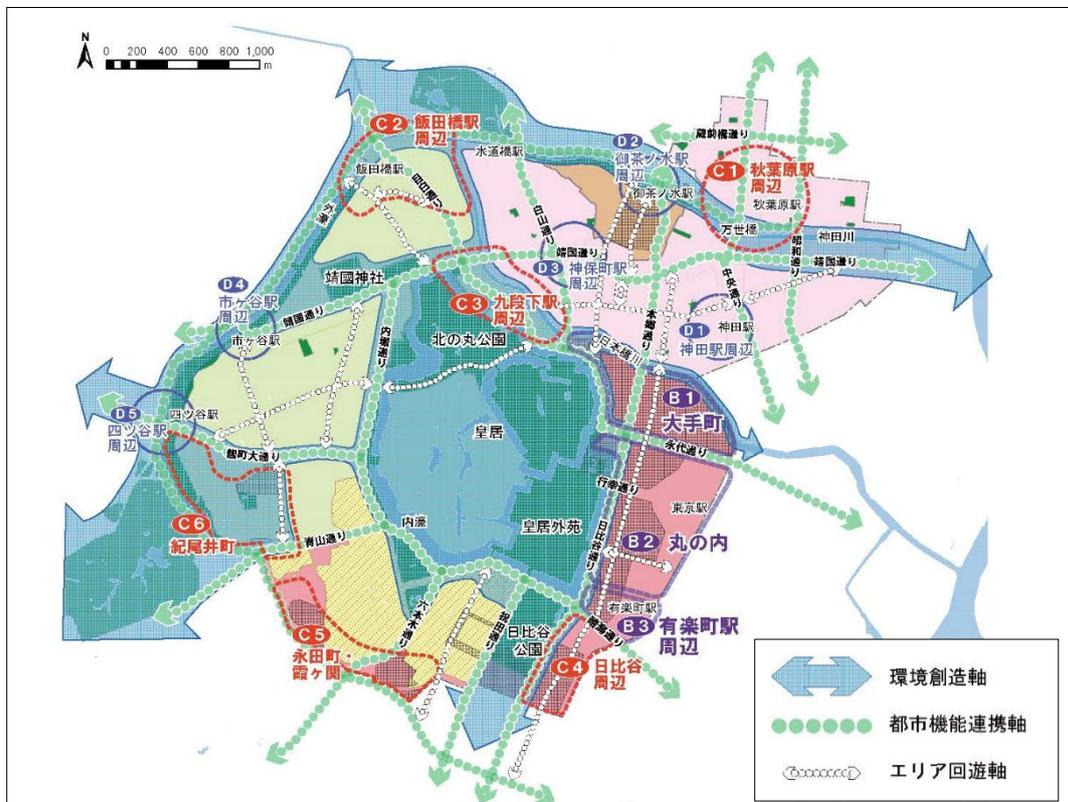


図 6-10 心地よい環境を都心に広げる骨格軸

出典:「千代田区 都市計画マスタープラン つながる都心 人・まちが織りなす多彩な都市の価値」(千代田区、令和3年5月)

調査ルート

凡例

- ルート1(距離 3,423m)
- ルート2(距離 2,451m)
- ルート3(距離 3,605m)
- ルート4(距離 3,712m)
- 区界

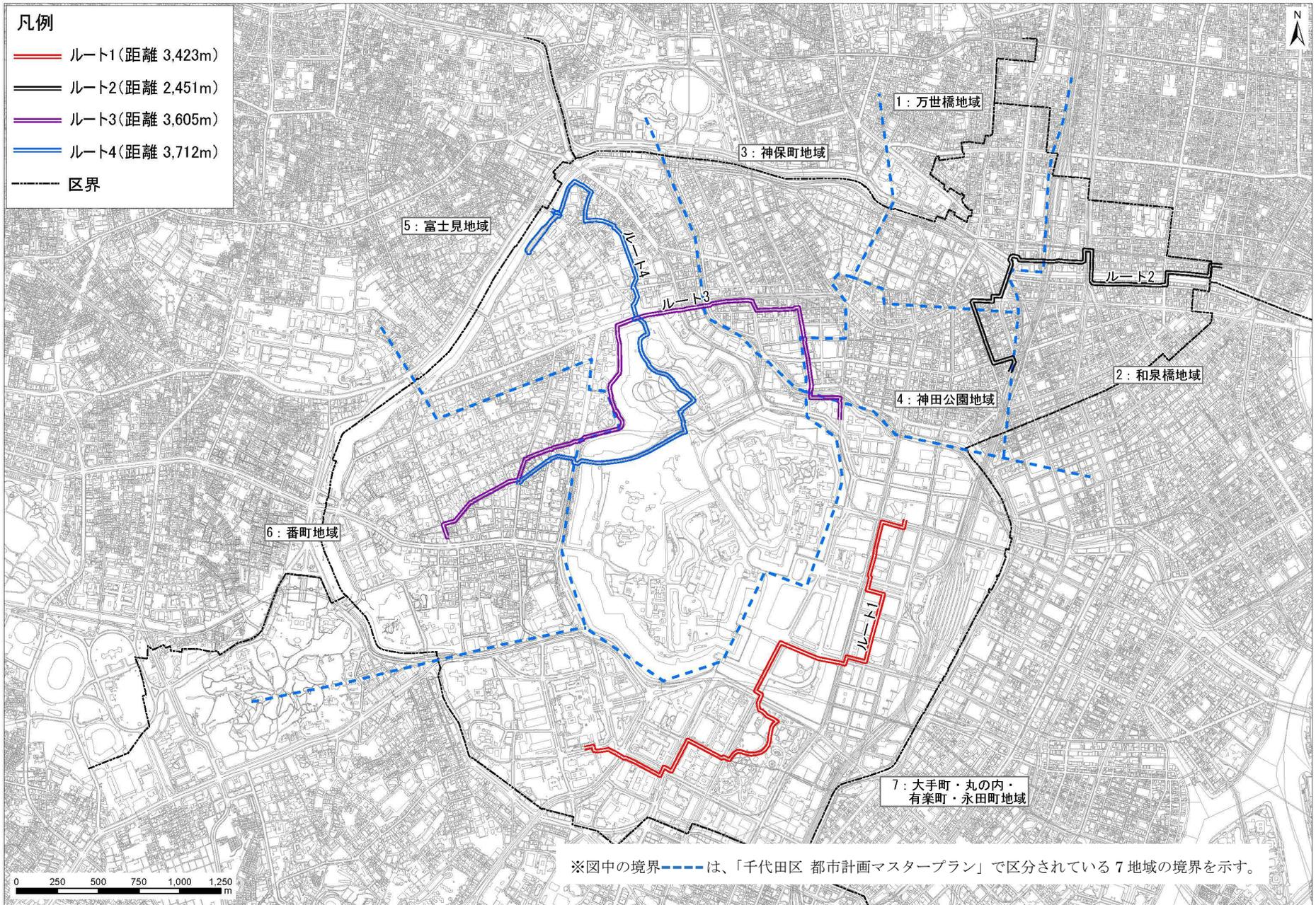


図 6-11 調査ルート

調査ルートとヒートアイランド対策実施箇所の重ね図

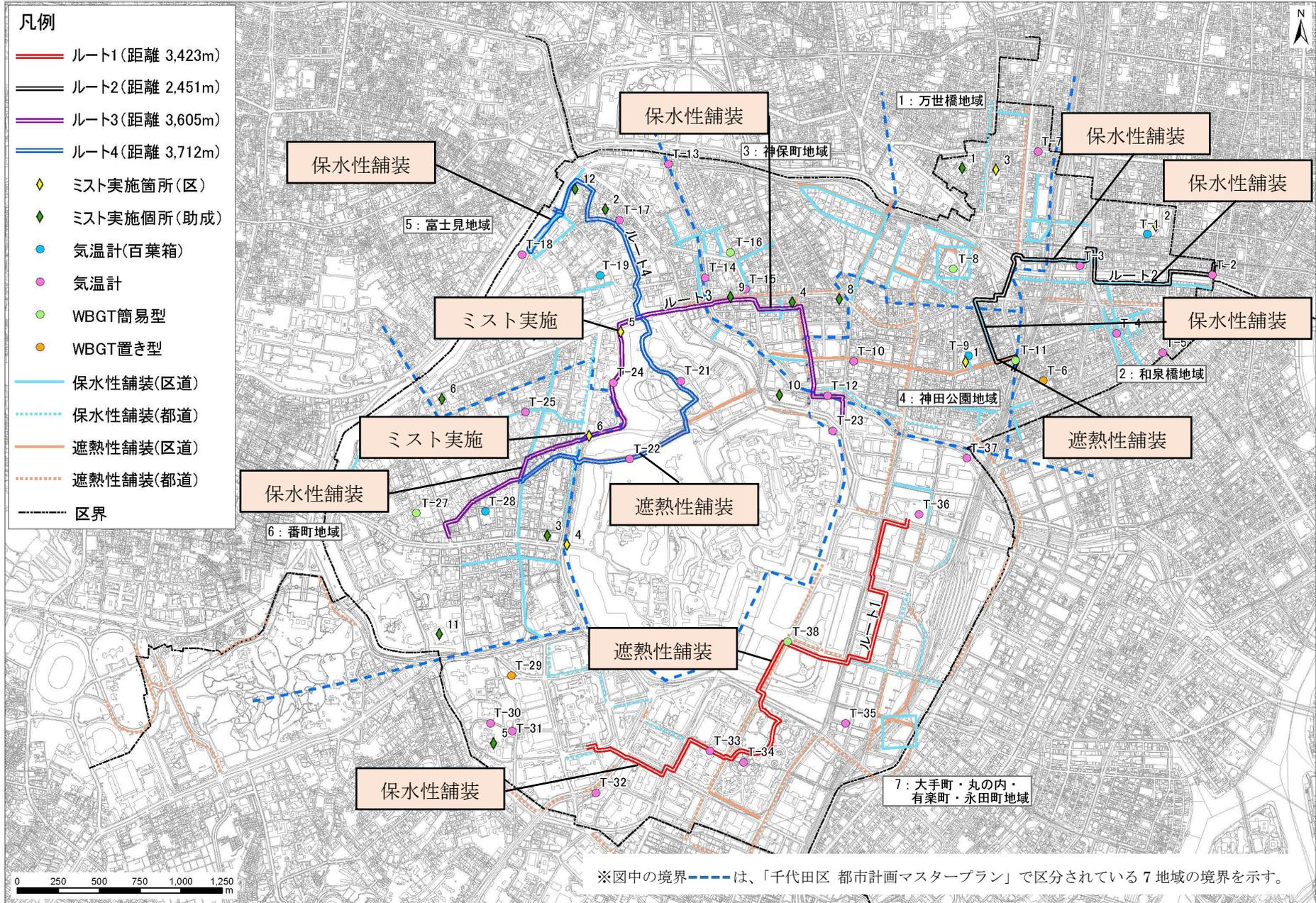


図 6-12 調査ルートとヒートアイランド対策実施箇所の重ね図